

2022年度業務実績報告書

提出日 令和5年1月19日

1. 職名・氏名 准教授 河部壮一郎

2. 学位 学位 博士、専門分野 理学、授与機関 東京大学、授与年 2013年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 恐竜学（2単位）1, 2, 3年；地球生命史学（2単位）1, 2, 3年；生物科学（2単位）1, 2, 3年；生物進化学（2単位）M1, M2年；地球環境史学（2単位）M1, M2年；古生物学専攻演習I（2単位）M1年；古生物学専攻演習II（2単位）M2年；古生物学専攻実験I（2単位）M1年；古生物学専攻実験II（2単位）M2年
②内容・ねらい 恐竜をはじめとした古生物の進化の流れを理解するとともに、古生物から引き継がれた現在の動物の形態の機能的意義を理解する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 できるだけ広い分類群を扱うことで、興味をより持ちやすくしている。
(2)その他の教育活動
内容 福井県立恐竜博物館でのセミナーや展示解説 「脳、神経から迫る恐竜の姿」（朝日カルチャーセンター講座） 「謎解き恐竜学'22春 ～恐竜 THE WORLD」（大阪よみうり文化センター講座）

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【0本】
② 学術論文 (査読あり)	
1. Anatomical network analyses reveal evolutionary integration and modularity in the lizards skull. 共著 (Asakura, Y., <u>Kawabe, S.</u>), Scientific Reports (12), 2022年9月	
*2. Complex neurovascular system in the dentary of <i>Tyrannosaurus</i> . 共著 (<u>Kawabe, S.</u> , Hattori, S.), Historical Biology (34), 2022年7月	【2本】
③ その他論文 (査読なし)	【0本】
④学会発表等	
1. 手取層群大黒谷層 (前期白亜紀) 産潜頸類の頭骨形態, 日本古生物学会 2022 年年会 (2022年7月), 共同 (平山 廉, <u>河部壮一郎</u> , 對比地孝亘).	
2. 徳島県勝浦町に分布する下部白亜系立川層の恐竜化石発掘調査, 日本古生物学会 2022 年年会 (2022年7月), 共同 (辻野泰之, 小布施彰太, 中尾賢一, 柴田正輝, <u>河部壮一郎</u> , 東洋一, 関谷 透, 菌田哲平, 築地祐太, 中山健太郎, 小笠原憲四郎).	
3. 耳形態から化石カメ類の生息環境を推定するための指標, 日本古生物学会 2022 年年会 (2022年7月), 共同 (坂上莉奈, 菌田哲平, 服部創紀, <u>河部壮一郎</u> , 柴田正輝, 平山廉).	
4. A proxy for brain-to-endocranial cavity index in non-neornitnean dinosaurs and other extinct archosaurs, 10th European Conference on Comparative Neurobiology (2022年6月), 共同 (Knoll, F., <u>Kawabe, S.</u> , Watanabe, A.).	
5. <i>Fukuivenator paradoxus</i> の系統的位置の再検討, 日本古生物学会第 171 回例会 (2022年2月), 共同 (服部創紀, <u>河部壮一郎</u> , 今井拓哉, 柴田正輝, 宮田和周, 徐星, 東洋一).	
6. カマラサウルスの上顎および下顎の血管神経管の解析, 日本古生物学会第 171 回例会 (2022年2月), 共同 (平良暁子, <u>河部壮一郎</u> , 高桑祐司, 関谷 透).	
7. 仮想現実を利用した古生物展示の展望と課題, 日本古生物学会第 171 回例会 (2022年2月), 共同 (今井拓哉, 芝原暁彦, <u>河部壮一郎</u> , 東洋一, 村上雅彦, 吉田雅則「仮想現実を利用した古生物展示の展望と課題」日本古生物学会第 171 回例会, オンライン, 2022年2月.).	
8. 現生カメ類の中耳・内耳形態と生息環境の関連性, 日本古生物学会第 171 回例会 (2022年2月), 共同 (坂上莉奈, 菌田哲平, 服部創紀, <u>河部壮一郎</u> , 柴田正輝, 平山廉).	【8件】
⑤その他の公表実績	【0本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
科研費基板研究 C (代表)「恐竜における脳と頭骨の形態的共変化の解明」2021~2024 年度	
科研費基板研究 B (共同)「鳥類の脳サイズと移動生態の進化的繋がり: 種間および種内での比較解析による検証」2021~2024 年度	
科研費基板研究 C (共同)「比較解剖学的・組織学的手法による古生物の嘴の復元」2018~2021 年度 (延長)	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	

5. 地域・社会貢献活動

研究者、福井県立恐竜博物館、2018年～

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

教育研究委員会

(3)学内行事への参加

2022年度 後期公開講座「恐竜のおしごと！！：福井恐竜学 第4回 これからは恐竜もデジタル」2023年1月

(4)その他、自発的活動など